

# そうだ 大野山に行こう！

日時：2022年10月15日（土） 曇 健脚LV2 歩数：22000歩 距離：12km

集合：JR御殿場線谷峨駅9時02分

（国府津駅（8時31分）→松田駅（8時47分）→（9時02分）谷峨駅）

コース：谷峨駅（標高167m）～嵐橋～都夫良野の頼朝桜～東屋～標高634mのモニュメント～

大野山（標高723.1m）～イヌクビリ～地蔵岩コース～地蔵岩コース登り口～旧共和小学校  
～樋口橋～県道76号～山北駅（標高107m）

参加者：常盤 河野（L） 市村 風間

秋は空気も澄み絶好のハイキング季節です。そこで手ごろなハイキングコースの大野山へ出かけました。ガイドブックによると「広々とした山頂部を覆う青々とした牧草地が何とも牧歌的な山、山頂付近まで車道が通じ、入山下山ともに車道歩きが難点だが、家族で歩けるハイキングコースだ」と紹介されています。

大野山という名前の山はたくさんあるようですが、今回めざすのは山北町の標高723.1mの大野山です。私は、神奈川ウォーキングクラブに加入して2回大野山に上りました。1回目は2016年4月29日、大野山山開きのときで山頂では山開きイベントが行われていて、ヤマメの塩焼きなどを売る屋台も出ていました。先着100人だったか200人だったかミルクが振舞われました。このときは谷峨駅～大野山～谷峨駅コースでした。2回目は2017年3月25日、今回と同じ谷峨駅～大野山～山北駅コース、桜の季節で山北駅手前の御殿場線と並行している桜並木道が印象に残っています。

5年ぶりの大野山、リーダーの河野さん、常盤さん、風間さんと「そうだ 大野山に行こう！」レッツゴー。



## 谷峨駅(標高 167m) ふく石 9時45分スタート～跨線橋～田園地帯

谷峨駅は山北町の清水地区に位置する山間の駅です。1907年(明治40年)開設の信号場を前身とし、住民の要望により1947年に駅として開業。丹沢湖・中川温泉方面への玄関口で隣の駅は静岡県小山町の駿河小山駅です。駅舎は、かつては木造でしたが2000年に三角屋根の駅舎に改築されました。河野さんが「かわいいふく石があるよ」と教えてくれました。写真をパチリ。ストレッチをして9時45分スタート、跨線橋を渡ります。御殿場線に並行して国道246号線、下り方面は混みあっています。上を都夫良野トンネルから出てきた東名高速道路下り線が走っています。跨線橋を下りて田園地帯に入りました。



## 田園地帯～酒匂川 嵐橋 山北発電所取水堰堤～アスファルト道～登山口

稲が刈られた後の田と野菜畑の中の道を進みます。前にも後ろにも老若男女の何組かのハイカーが大野山をめざしています。酒匂川に架かる吊橋の嵐橋へ、景色が開かれ上流側には山北発電所取水堰堤があり、勢いよく水が流れ落ちています。橋を渡ると九十九折りのアスファルトの上り道、中日本高速道路株式会社のビルがあり、東名高速道路保守のための自動車なのか、敷地内に十数台の車両が駐車していました。かなり高度を上げると、右手下に谷峨駅（写真左の赤い屋根）近くの集落を望むことができました。アスファルト道を上りきったところには民家が数軒点在していて、左手が大野山ハイキングコースの登山口です。



## 登山道へ～都夫良野の頼朝桜～ガマズミの実～11 時丁度東屋に到着

登山口から民家の横を通り山道に入ります。先を歩いていた年配の男性グループが「どうぞお先に」と道を譲ってくれました。20分ほど上り続けて石段を上がると自動車道へ、山北町指定天然記念物の都夫良野の頼朝桜があり、説明板には「天保年間徳川幕府編さんの新編相模国風土記稿に挿絵と共に載っている。樹高は11.6m」と書かれていました。少し進むとトイレ休憩所があり、その横の登山道に入ります。赤い色が鮮やかなガマズミの実がなっていました。自動車道に出合ったところ以外は上り続け、風がなく蒸し暑い。11時丁度にジャムなどの無人販売がされている東屋に到着。お菓子と水分補給で休憩タイムです。



## 東屋～花々～急峻な上り～風にゆれるススキ～標高 634m～東屋通過

元気がでたところで山頂をめざします。この辺りから高い木がなくなり展望良好。たくさんの花を見かけるようになり、常盤さんが花の名前を教えてください。紫の花はヒキオコシ、黄色の花は依然教えてもらったキリンソウ、次は私も知っているツリガネソウとアザミ、でもそれぞれ種類はたくさんあるようです。かなり急峻な上りが続きます、展望が良くススキが風にゆれているところで水分補給、なんとも心地よい風のご褒美を受けます。若者グループが追い抜いて行きます。少し上ったところに木彫りのモニュメントがあり「スカイツリーと同じ高さ！634m」の表示。5分ほど上り「山頂近し」を思わせる東屋を通過。



## 東屋～ススキをかき分け～12時05分大野山山頂 丹沢湖を眺め昼食

東屋を通過してもまだ上り道、ススキの茂みをかき分けて進んで行くと前方に山並みが展望できるようになりました。舗装された道を進み12時05分、標高732.1mの大野山山頂に到着。標高差556mをほぼ上りとおして来て達成感いっぱい、南側斜面からは心地よい風が吹き上げてきて何とも言えません。「大野山山頂七三二・一メートル 山北町」の標柱を挟んで記念写真です。山頂は広々としていて東屋の下や広場にシートを敷いて昼食をとる人、自転車で上ってきた人などで賑わっていました。この日はあいにくと富士山は展望できませんでしたが、丹沢の山並みと眼下の丹沢湖を眺めながらの昼食タイムとなりました。



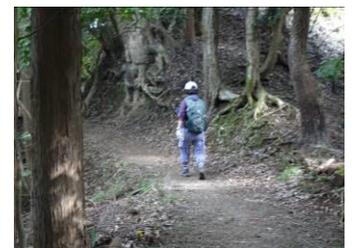
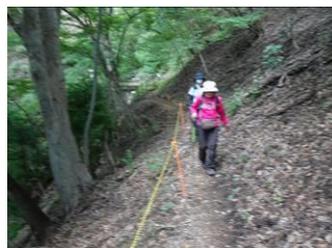
## 大野山 12時55分～緑のグラデーションを楽しみながらの下山

すっかりゆったりしてしまい12時55分、山北駅をめざして下山開始。まずはイヌクビリをめざして東へ進みます、山頂南側にシキミの白い花が咲いていました。北側には携帯基地局のアンテナが建っています。緩やかなアスファルト道を下って行くと前方右手東南の方向に足柄平野と相模湾、正面東には高松山などの山並みを展望、「緑のパッチワーク見たい」と常盤さん、緑のグラデーションを楽しみながらの下山です。



## イヌクビリ～地蔵岩コース～木段の長い下り～地蔵岩コース登り口

イヌクビリまで下りてきました。掲示板があり太字の赤い下山コースは自動車を通るコースのようです。山道の地蔵岩コースで下ります。北側へは丹沢湖へ下りるコースがあります。山北駅への道標があり、ここからは登山口～樋口橋へと南をめざして歩きます。木段の長い下り、標高634mのモニュメントがありました。右側が深く切れ込んだ道を下って行きます。木橋のところへ来ましたが、橋は崩壊していて渡れず、山肌側に作られている迂回ルートで下りて行きます。ようやく平坦な道になりほっと一息、最後は石段です。階段を下りきって一般道路へ出たところが地蔵岩コース登り口。



## 旧共和小学校～白いゴーヤ キバナコスモス お茶の花～幹線道路へ

緩やかな下り坂の一般道を進みます。地図で旧共和小学校と表示されているところへ来ました、廃校になっていて地域の方が「お休み処」などに活用していました。正門前に大きな看板、山北駅へのハイキングコースを指し示しています。隣に白いゴーヤがたくさん実っています。風間さんは「丹沢の山並みが気持ち良かったです。でも白いゴーヤが今日の一番です」と印象に残ったようです。少し下った民家のところにキバナコスモスが群生、小さいながらも茶畑があり白い花を咲かせていました。ハイキングコースの山道を少し下ると民家が見えてきて14時50分、大型トラックが行き交う幹線道路まで下りてきました。



## 国道246号～樋口橋～県道76号～桜並木道～15時30分 山北駅

東名高速道路の下を通り、幹線道路をひたすら歩き20分、国道246号に出ました。T字路で右は谷峨・御殿場方面、左の松田方面へ進んでトンネルをくぐります。樋口橋に出て246号線は直進、左の県道76号線へ入ります。御殿場線に並行した桜並木の道を歩きます。駅近くのところに一世を風靡した蒸気機関車が展示されていました。15時30分、ゴールの山北駅に到着しました。



## 歩数2万2000歩、距離12kmのハイキング 5年前と同じコースタイム

歩数2万2000歩、距離12kmのハイキングでした。前2回のリーダーは市川さんで「大野山は自分の脚力を知るのに良い山だ」と言われていたことが印象に残っています。私としては「急登ではないが山頂までほぼ登りの連続で脚力が分かる」と解釈していました。今回2017年のコースタイムとほぼ同じコースタイムで山頂へ、下山はピッタリ同じタイムの2時間35分でした。低山とはいえ一歩一歩足を踏みしめて山頂に到達、吹き上げてくる爽やかな風とどこまでも続く丹沢の山並み、眼下の丹沢湖、しばし下界の喧騒を忘れてリフレッシュできました。

ちなみに2016年の参加者は25人(勅使河原、平嶋、饗場、市川、小野里、青松、河野、清水、小山文、小山美、福士、横田、市村、中村ゆ、丹後、平林、志村、大島、小田、武倉、木村、石原ゆ、青松美、山田、中林)。2017年の参加者は10人(勅使河原、平嶋、平石、市川、熊島、平野、河野、栗田、市村、大島)でした。

(いちむら記)